2　今後の課題

(1) 調査実施校・研究協力校が通級指導教室のある学校であったので、事例が通級による指導に偏りました。通級による指導の活用以外についても、援助の場や形態の研究を広げる必要があります。

(2) 実態調査の項目を改善し、ＬＤのスクリーニングのための精度を高めるとともに、中学校・高等学校における調査事例研究の検討が必要です。

(3) ＬＤの特徴の分析を深め、その対応を生かした指導方法の的確性を高めることが課題です。

(4) 研究成果を各学校の教育活動に生かすため、研修講座等多様な機会を活用したり、各地域・学校の研究活動との交流に努めたりする必要があります。

《参考文献》

＊　平成６年度　大分県教育センター研究紀要
「発達の偏りが著しい子どもに対する個別援助プログラム」

＊　平成８年度　京都市永松記念教育センター報告
「いわゆる『学習障害(ＬＤ)』に関する実態把握と教育的手立てのあり方について
～ＩＥＰの視点を取り入れた指導へのアプローチを通して～」

＊　平成８年度　北海道立特殊教育センター研究紀要
「情緒障害特殊学級における『学習障害』の状態像を示す児童生徒の特性等の理解と指導に関する一考察」

＊　平成９年度　福岡県教育センター研究紀要
「ＬＤ(学習障害)児等への援助－クラスの中の気になる子－」